

あおえネットワーク

岡山赤十字病院 患者サポートセンター

3
2026



岡山日赤HP

研修会・カンファレンスのご案内

※会場参加の際は、感染症予防対策にご理解・ご協力をお願いいたします

日時・会場	名称	演題・演者等
令和8年3月4日(水) 19:00～19:20 岡山赤十字病院 南館1階 研修室 (ハイブリッド開催)	第35回 地域連携パス 連絡会	『脳卒中パスについて』 岡山赤十字病院 脳卒中科部長 岩永 健 『大腿骨頸部骨折パスについて』 岡山赤十字病院 第一整形外科副部長 (兼) 外傷センター長 保利 忠宏
令和8年3月4日(水) 19:30～21:00 岡山赤十字病院 南館1階 研修室 (ハイブリッド開催)	第96回 岡山赤十字病院 病診連携研修会	テーマ『認知症・MCI診療の最前線：予防と治療』 講演Ⅰ『高齢者乳がん患者の治療について』 岡山赤十字病院 乳腺・内分泌外科部長 吉富 誠二 講演Ⅱ『古い、老化、認知症』 岡山赤十字病院 精神神経科顧問 中島 誠 《生涯教育カリキュラム(1.5単位) : 4:医師-患者関係とコミュニケーション(0.5) 29:認知能の障害(1.0)》
令和8年3月11日(水) 19:00～21:00 岡山赤十字病院 センター棟4階 研修室 (ハイブリッド開催)	「認知症サポ ート医研修」及び 「地域における 認知症患者支援 体制の確保のた めの連絡会議」	1. 認知症サポート医研修 (19:00～20:30) 講演①『認知症診療で感じる問題点』 医療法人おおぞら会 同仁病院 副院長 丸山 昌彦先生 講演②『MCI・認知症患者の診療の基本』 片山内科クリニック 院長 片山 禎夫先生 2. 地域における認知症患者支援体制の確保のための連絡会議 (20:30～21:00) 《生涯教育カリキュラム(2単位) : 29:認知能の障害(1.5) 13:医療と介護および福祉の連携(0.5)》

紹介予約と当日紹介に関するアンケートの回答について

平素より地域医療連携に格別のご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
昨年11月に実施いたしました『外来診療予約と当日紹介についてのアンケート』にご協力いただき、誠にありがとうございました。一部ではございますが、お寄せいただいたご質問への回答を同封させていただきましたので、ご参考にしていただけますと幸いです。
今後とも岡山赤十字病院 患者サポートセンターをよろしくお願いいたします。



がんサロン開催のお知らせ

日時：3月10日(火) 10:00～11:00

場所：岡山赤十字病院 南館2階 会議室1

対象：がん患者さんとそのご家族
(入院中の方、通院中の方どなたでも参加できます)

1. ミニレクチャー
『がん治療中の体力維持とサルコペニア予防について』
講師：理学療法士 武村 元太郎

2. 座談会
(内容は問いません)



ご要望・ご意見等ございましたら、「診療所の先生方の声」として地域医療連携課までお寄せください。

TEL/086-235-8555 FAX/086-235-8556 e-mail/renkei@okayama-med.jrc.or.jp

院内Topics ニュース&報告

赤十字健康講座

去る令和8年1月17日(土)に赤十字健康講座に登壇いたしました。講演テーマは「心不全とつきあう～発見！治療！予防！～」でした。本講演は、日本人の死因第2位である心臓病の予防と健康寿命の延伸をテーマとしています。

平均寿命と健康寿命の間には約9～12年の差があり、この期間は介護が必要な状態を指します。要介護の原因の約20%は、心臓病を含む循環器病が占めており、その予防が不可欠です。心臓病の解説や治療および生活習慣病管理や食生活など、予防についても説明しました。また発見には、日々の血圧測定や健康診断の受診が重要であることに触れました。まとめとしては「健康寿命延伸の4本柱」として、高血圧や糖尿病などの生活習慣病の管理、減塩や魚の摂取を意識した食事、適度な運動、そして異常を早期発見するための定期的な検診が挙げました。

心臓病に関しては、一般市民の方への啓蒙は非常に重要だと考えていますので、このような機会を与えていただき感謝しております。少しでも心臓病になる方が少なくなってくれればと願っています。

循環器内科部長 福家 聡一郎



医学雑誌最優秀論文表彰式

このたびは医学雑誌最優秀論文にご選出いただき、また互礼会にて論文内容をご紹介させていただき貴重な機会を賜り、心より感謝申し上げます。

本論文「FilmArray呼吸器パネル検査の有効性と課題」では、新型コロナウイルス流行後に大きく変化した呼吸器感染症診療の現状を踏まえ、病原体同定の重要性について検討しました。FilmArray呼吸器パネル検査は、多数の病原体を短時間で同時に検出可能なPCR検査であり、2023年に当院赴任後、その有用性に着目し研究を開始しました。小児科において2年間に実施した681例を解析した結果、治療方針決定や流行状況の把握に有用である一方、感染曝露機会の多い年齢層では偽陽性が多いという課題も明らかとなりました。本論文では、これらの結果を踏まえた適切な使用法を提案しています。今後も日常診療の中で生じた疑問を大切にし、研究・論文化を継続していきたいと考えております。

最後に、本研究にご協力いただいたすべての皆様に深く感謝申し上げます。

小児科部 藤井 洋輔

